

一宮町長  
馬淵 昌也

すっかり秋になりました。収穫の秋といいますが、我が家にも何本かの果樹があり、若干の収穫ができています。

植えてから6、7年以上経っているにも関わらず、一向に実をつけないナツメが、今年は沢山、実をつけてくれました。これまで高く伸び上がって、葉っぱが茂るばかりでしたが、今年は知らないうちにいっぱいの実をつけており、気が付かないうちに、たくさん落下してしまいました。やっと実つたのに、残念なことをしました。ナツメは干したり、甘酸っぱく煮てコンポートにしたりして、保存食にします。健康にはたいへんよい効果があるそうです。

息子が小さい時に欲しがって植えたザクロの木もあります。10年選手ですが、こちらも幹や枝は伸び、花も膨大に咲くものの、一向に実をつけません。果樹は、ある程度年をとって、子孫を残すモードにならないと結実しないと聞きますが、そういうことなのでしょう。数年前、いくつか実をつけましたが、結局すべて途中で落ちたり腐ったりで、まったく食用にはなりません。今年は一つも実がありません。

クリの木もあります。5年ほど前、ある方に頂いたクリがおいしかったので、何粒か蒔いてみたところ、芽が出たのを育てたものです。昨年実がはじめてなりましたが、やはりおいしいクリでした。今年は、沢山なつてほしいと期待していましたが、急にネグサレ病にかかって、すっかり元気がなくなっていました。ネグサレ病について調べましたが、治療法はないようなので、もはや将来豊作の希望はないようです。

こうして果樹を育ててみると、毎年美味しい果実をコンスタントに収穫することは本当に難しいことがわかります。一宮町は、秋はナシの産地として有名です。以前、県の農林部の方から、一宮・岬梨組合のナシは、県下・全国各地のナシの産地と比べても、どこにも負けない、最高品質のナシだと伺いました。毎年みずみずしくおいしい素晴らしいナシを栽培し、私たちを喜ばせて下さっている農家の方々のお仕事の大変さ、重責や、難度の高さに、自らの果樹栽培の苦勞を踏まえて、改めて思いを馳せると、敬意を抱かずにはおられません。